

## 基礎看護学実習

### 1. 実習目標

#### 1) 基礎看護学実習 I

- (1) 病院での対象者や看護活動の実際を見ることにより、対象者と看護について理解を深め、看護の学習への動機づけとする。
- (2) 日常生活の援助技術を実施し、観察及びコミュニケーション技術の基礎的能力を身につけ、根拠ある行動の理解を深める。

#### 2) 基礎看護学実習 II

- (1) 看護実践をとおして、看護を展開する基礎的方法を理解できる。

### 2. 実習構成

時期	区分	実習場所	単位
1 年 次	基礎看護学実習 I	一般病棟	2 単位
	基礎看護学実習 II	一般病棟	2 単位

\*実習時間には、実習ゼミ時間等の時間を含む

### 3. 実習内容

#### 1) 基礎看護学実習 I

##### (1) 実習内容

- ①対象者から病院で生活している様子や思いを聞き、対象者の療養環境を理解する。
- ②病院での看護活動の一部を知る。
- ③対象者の生活状況から生活の自立度を考え、援助の必要性とその方法を理解する。
- ④対象者への看護援助を介助・実施する。
- ⑤看護援助を通して、根拠ある行動を理解する。

#### 2) 基礎看護学実習 II

##### (1) 実習内容

- ①対象者の身体・心理・社会的状況から、対象者の状態を理解する。
- ②対象者の現在の状況を整理・分析し今後の方向性を考える。
- ③対象者の状況に応じた看護計画を立案する。
- ④立案した計画を対象者の状況を考慮して実施・評価する。
- ⑤看護師としての基礎的な姿勢を理解する。

## 地域・在宅看護論実習

### 1. 実習目標

#### 1) 地域・在宅看護論実習 I

- (1) 居宅で療養している人が利用できる施設での看護活動の実際を知る。
- (2) 居宅で生活している高齢者への地域での支援の実際を知る。
- (3) 施設へ入所している高齢者が、居宅での生活ができるための看護活動の実際を知る。
- (4) 居宅で療養している人の生活と訪問介護の実際を知る。

#### 2) 地域・在宅看護論実習 II

- (1) 地域での施設の役割を知る。
- (2) 施設で生活する高齢者の特徴が理解できる。
- (3) 施設で生活している高齢者が利用する施設での看護活動の実際が理解できる。

#### 3) 地域・在宅看護論実習 III

- (1) 訪問看護ステーションのある地域の特徴を知る。
- (2) 対象者の訪問看護導入の経過について理解できる。
- (3) 対象者とその家族の療養生活への看護活動が理解できる。
- (4) 社会資源の活用方法と関係職種との連携について理解できる。
- (5) 訪問看護における看護師の役割について理解できる。

### 2. 実習の構成

時期	区分	実習場所	単位
2 年 次	地域・在宅看護論実習 I	介護老人保健施設 ヘルパーステーション 広島市心身障害者福祉センター 地域包括支援センター	1 単位
	地域・在宅看護論実習 II	介護老人福祉施設	1 単位
3 年 次	地域・在宅看護論実習 III	訪問看護ステーション 医療支援センター 合同カンファレンス	1 単位

\*実習時間には、実習ゼミ時間等の時間を含む

### 3. 実習内容

#### 1) 地域・在宅看護論実習 I

##### A 介護老人保健施設

##### (1) 目的

要介護者が居宅における生活を営むことができるよう心身の機能の回復・維持を図るための支援の実際を学ぶ。

##### (2) 目標

- ①介護老人保健施設の役割と機能が理解できる。
- ②対象者の居住する地域や在宅の状況をふまえた心身の機能回復を図るための支援の実際を理解する。
- ③対象者が地域で生活を営むための環境の調整とそれを支える職種間の連携の実際を理解する。

##### B ヘルパーステーション

##### (1) 目的

訪問介護を利用している療養者や家族の生活を知り、援助の実際を学ぶ。

##### (2) 目標

- ①療養者と家族を生活者としてとらえることができる。
- ②療養者と家族の生活がわかる。
- ③ホームヘルパーの役割が理解できる。
- ④看護職の役割について考えが深められる。

## C 広島市中心身障害者福祉センター

### (1) 目的

心身に障害のある人々への理解を深め、障害のある人々に対する支援のあり方と社会資源の実際を学ぶ。

### (2) 目標

- ①心身に障害のある人々の環境について考えることができる。
- ②心身に障害のある人々の社会参加の実際と支援のあり方を理解できる。
- ③心身に障害のある人々に対する看護職の役割を考えることができる。

## D 地域包括支援センター

### (1) 目的

地域で生活する高齢者やその家族への支援について学ぶ。

### (2) 目標

- ①地域包括支援センターの役割と機能について理解できる。
- ②地域包括支援センターにおける支援の実際についてわかる。

## 2) 地域・在宅看護論実習Ⅱ

### A 介護老人福祉施設

#### (1) 目的

常に介護が必要な対象者が、施設においてその人らしい生活を営むための支援の実際を学ぶ。

#### (2) 目標

- ①介護老人福祉施設の役割と機能が理解できる。
- ②施設での対象者の生活が理解できる。
- ③その人らしい生活を営むための生活環境と支援の実際がわかる。

## 3) 地域・在宅看護論実習Ⅲ

### A 訪問看護ステーション

#### (1) 目的

訪問看護の実際の場面から、対象者とその家族の療養生活の様子を知り、在宅看護における訪問看護師の役割と機能を理解する。

#### (2) 目標

- ①療養者と家族が暮らしている地域の特徴を知る。
- ②療養者の訪問看護の経過と目的が理解できる。
- ③療養者と家族への看護活動の目的と必要性がわかる。
- ④療養者が活用している社会資源がわかる。
- ⑤多職種連携の必要性と方法について理解できる。
- ⑥体験した事例から訪問看護師の役割について理解できる。
- ⑦看護師としての基本的態度を身につける。

## 成人・老年看護学実習

### 1. 実習目標

#### 1) 成人・老年看護学実習Ⅰ

- (1) 急性の状態にある対象者・家族の特徴を理解できる。
- (2) 手術に対する生体反応と成人期及び老年期の患者の特徴をふまえた回復過程が理解できる。
- (3) 周手術期にある対象者の早期回復を目指した医療チームの連携と看護が理解できる。
- (4) 機能障害により生活の変容が必要となる対象者とその家族に対する看護を理解できる。

#### 2) 成人・老年看護学実習Ⅱ

- (1) 生活機能障害のある対象者の回復過程を支援する看護が考えられる。
- (2) 疾病・障害を抱え生活する対象者・家族を理解し、心理過程に応じた看護を考えることができる。
- (3) 退院後の生活を見据えた多職種連携や社会資源の必要性を考えることができる。

#### 3) 成人・老年看護学実習Ⅲ

- (1) 対象者の状況に応じて、エンパワメントを支援する援助を考えることができる。
- (2) 慢性疾患を有する人の体験することについて理解できる。
- (3) 対象者の意思決定とアドヒアランスを支援する看護について理解できる。
- (4) 慢性期にある対象に対する多職種の連携と看護師の役割が理解できる。

#### 4) 成人・老年看護学実習Ⅳ

- (1) がん治療を受ける対象者の看護が理解できる。
- (2) 全人的苦痛を緩和するための看護について理解できる。
- (3) 最期を迎える対象者および家族の心理を発達課題と合わせて考えることができる。
- (4) 尊厳ある死および自らの死生観について考えることができる。

### 2. 実習構成

時期	区分	実習場所	単位
2 年 次	成人・老年看護学実習Ⅰ 急性の状態からの回復への 看護	一般病棟 手術室	2単位
	成人・老年看護学実習Ⅱ 生活機能再獲得への看護	一般病棟	2単位
	成人・老年看護学実習Ⅲ ヘルスマネジメントに向け た看護	一般病棟	2単位
3 年 次	成人・老年看護学実習Ⅳ ターミナルステージにある 対象者への看護	一般病棟 緩和ケア病棟	2単位

### 3. 実習内容

#### 1) 成人・老年看護学実習Ⅰ

##### A 病棟

###### (1) 目的

周手術期にある対象者及び家族の看護を理解する。

###### (2) 目標

- ①対象者の発達課題に応じた看護を考えることができる。
- ②急性の状態にある対象者・家族の特徴を理解できる。
- ③手術に対する生体反応と回復過程が理解できる。
- ④周手術期にある対象者の早期回復を目指した看護が理解できる。
- ⑤機能障害により生活の変容が必要となる対象者とその家族に対する看護を理解できる。

##### B 手術室

###### (1) 目的

手術前後の看護師の役割及び手術看護について理解する。

###### (2) 目標

- ①手術を受ける患者や家族の特徴を理解する。
- ②手術室における看護の実際から看護師の役割が理解できる。
- ③手術室における医療チーム間の連携と看護師の役割が理解できる。

#### 2) 成人・老年看護学実習Ⅱ

###### (1) 目的

回復期からリハビリテーション期にある対象の特徴を理解し、その変化に応じた看護の実践を学ぶ。

###### (2) 目標

- ①対象者の発達課題に応じた看護を考えることができる。
- ②対象者の健康レベルに応じた看護が理解できる。
- ③生活機能障害のある対象者への看護が理解できる。
- ④疾病・障害を抱え生活する対象者・家族を理解し、心理過程に応じた看護を考えることができる。
- ⑤退院後の生活を見据えた多職種連携や社会資源の必要性を考えることができる。

#### 3) 成人・老年看護学実習Ⅲ

###### (1) 目的

対象の発達段階をふまえ、慢性期疾患をもつ対象者とその家族に対しての看護の実践を学ぶ。

###### (2) 目標

- ①対象者の発達課題に応じた看護を考えることができる。
- ②対象者の健康レベルに応じた看護が理解できる。
- ③対象者の意思決定とアドヒアランスを支援する看護を理解できる。
- ④慢性疾患を有する人の体験することについて考えることができる。
- ⑤退院後の生活を見据えた多職種連携の必要性を理解できる。

#### 4) 成人・老年看護学実習Ⅳ

##### A 病棟

###### (1) 目的

最期を迎える対象を全人的に捉え、対象に必要な看護の実践を学ぶ。

###### (2) 目標

- ①がん治療を受ける対象者の看護が理解できる。
- ②全人的苦痛を緩和するための基本的な看護について理解できる。
- ③最期を迎える対象者および家族の心理を発達課題と合わせて考えることができる。
- ④尊厳ある死および自らの死生観について考えることができる。

## B 緩和ケア病棟

### (1) 目的

最期を迎える対象を全人的に捉え、人生の最後の時期を支える看護の実際を学ぶ。

### (2) 目標

- ①緩和ケア病棟における患者や家族の特徴が理解できる。
- ②緩和ケア病棟における看護の実際から看護師の役割が理解できる。
- ③緩和ケア病棟における医療チーム間の連携と看護師の役割が理解できる。
- ④尊厳ある死および自らの死生観について考えることができる。

## 小児看護学実習

### 1. 実習目標

- 1) 子どもと家族の尊厳を考え、それらを尊重する態度について考えることができる。
- 2) 子どもの成長・発達を理解し、特徴を捉えることができる。
- 3) 子どもの療育及び看護の実際について理解できる。
- 4) さまざまな健康レベルや状況に応じた子どもと家族の看護とその方法について理解できる。
- 5) 小児看護の役割について理解できる。

### 2. 実習構成

時期	区分	実習場所	単位
3 年 次	小児看護学実習	保育園 総合周産期母子医療センター (NICU・ GCU) 小児外来 小児病棟	2 単位

### 3. 実習内容

#### A 保育園

##### 1) 目的

乳幼児の成長・発達を理解し子どもへのかかわりについて学ぶ。

##### 2) 目標

- (1) 乳幼児の成長・発達が理解できる。
- (2) 乳幼児の生活を知る。
- (3) 乳幼児個々に合った日常生活の援助について知る。
- (4) 発達に応じた保育のあり方を考えることができる。

#### B 小児病棟

##### 1) 目的

小児各期の子どもの特徴を理解し、各健康レベルにある子どもと家族に必要な看護を学ぶ。

##### 2) 目標

- (1) 子どもと家族の尊厳を考え、尊重するかかわりができる。
- (2) 子どもの健康障害について理解し必要な看護について考えることができる。
- (3) 子どもの発達段階をふまえた看護を考えることができる。
- (4) 子どもと家族にとって安全・安楽な看護ができる。
- (5) 小児看護における看護師の役割について考えることができる。

#### C 小児外来

##### 1) 目的

子どもの健康の保持・増進、健全な成長を促進するための看護師の役割を学ぶ。

##### 2) 目標

- (1) 外来で行われている処置、検査、治療を見学し、必要な援助を知ることができる。
- (2) 外来受診している子どもと家族の思いについて考えることができる。
- (3) 外来看護師の役割について考えることができる。

#### D 総合周産期母子医療センター (NICU・GCU)

##### 1) 目的

医療的処置が必要な新生児とその家族に対する看護を学ぶ。

##### 2) 目標

- (1) 胎外生活への適応を支える看護について理解する。
- (2) 成長発達を支えるディベロップメンタルケアについて知る。
- (3) ファミリーセンタードケアについて考えることができる。

## 母性看護学実習

### 1. 実習目標

- 1) 妊娠によって起こる母体の生理的変化と胎児の発育状況を知り、妊娠中の健康管理の実際が理解できる。
- 2) 分娩各期の経過と母体の生理的変化を理解し、分娩経過に応じた看護の実際が理解できる。
- 3) 産褥期の生理的変化を理解し、必要な看護と保健指導の実際が理解できる。
- 4) 新生児の特徴や生理的変化を理解し、必要な看護の実際が理解できる。
- 5) 新生児を迎える家族の状況に合わせた看護の実際が理解できる。

### 2. 実習構成

時期	区分	実習場所	単位
次 3 年	母性看護学実習	産科病棟・産婦人科外来	2 単位

\*実習時間には、実習ゼミ時間等の時間を含む

### 3. 実習内容

#### A 産婦人科外来

##### 1) 目的

妊娠各期の母子の特徴を理解し、対象に応じた看護を学ぶ。

##### 2) 目標

- (1) 産科・産婦人科外来の特殊性が説明できる。
- (2) 妊娠によって起こる母体の生理的変化と胎児の発育状況が言える。
- (3) 妊婦健診の必要性が理解できる。
- (4) 外来における保健指導の必要性が言える。

#### B 病棟

##### 1) 目的

分娩・産褥・新生児期の母子の健康の保持・増進するための看護を学ぶ。

##### 2) 目標

###### <分娩室>

- (1) 分娩経過の観察ができる。
- (2) 分娩経過に応じた看護を考えることができる。
- (3) 家族を含めた看護の必要性が理解できる。

###### <褥室>

- (1) 産褥期の経過と母体の生理的変化が理解できる。
- (2) 産褥期に必要な基本的看護援助が理解できる。
- (3) 対象とする母子の全体像が理解でき、必要な看護援助を考えることができる。
- (4) 援助計画に沿って実施できる。
- (5) 実施した看護について評価・修正ができる。
- (6) 褥婦の進行性・退行性変化に対する観察と援助ができる。
- (7) 褥婦に必要な指導ができる。

###### <新生児室>

- (1) 新生児の生理的変化が理解できる。
- (2) 新生児に必要な看護が理解できる。

## 精神看護学実習

### 1. 実習目標

- 1) 精神に障害のある対象を身体的・心理的・社会的側面から捉え理解する。
- 2) 精神に障害のある対象の健康状態を判断し、対象の力を活かした生活援助をする。
- 3) 精神症状に応じた治療内容と対象への援助を理解する。
- 4) 精神看護における臨床判断能力を発揮し、対象者の安全・安寧を確保しながら、個別性のある看護援助を計画・実施・評価できる。
- 5) 精神保健医療福祉サービスの目的や職種の連携を学び、看護の役割を理解する。
- 6) 対象を尊重して治療的コミュニケーションを促進することで援助関係が構築できる。
- 7) 社会人基礎力を活用し、主体的に行動し根拠を持って考え抜き、チームと協働して看護を提供できる。

### 2. 実習構成

時期	区分	実習場所	単位
3年次	精神看護学実習	精神科病棟 精神科デイケア	2単位

### 1. 実習内容

#### <精神科病棟実習>

#### 1) 目的

- (1) 入院治療を受けている患者を理解し、患者の力を活かした生活援助をする。
- (2) 精神症状、状況をふまえ、臨床判断能力を発揮する。
- (3) 患者の意思を尊重したコミュニケーションにより、援助関係を構築する。
- (4) プロセスレコードを用いて、自己の対人関係の課題を明確にする。
- (5) 専門職業人としての自覚を持ち、日々社会人としての力を積み重ねる。

#### 2) 目標

- (1) 患者を身体的・心理的・社会的側面から査定し、日常生活の援助ができる。
  - ①入院患者の安全・保護のために整備された治療環境が理解できる。
  - ②患者に出現している症状と健康な精神活動が把握できる。
  - ③患者がこれまでの生活環境で獲得した生活能力を発達課題に沿って分析できる。
  - ④精神症状に応じた治療目的と内容を理解して、対応ができる。
  - ⑤精神症状や生活環境が患者の日常生活に与える影響が理解できる。
  - ⑥患者に関する情報や看護目標を看護チームで共有できる。
  - ⑦患者の力を活かした生活援助を行い、評価ができる。
  - ⑧臨床判断に基づき、根拠を持ち適切な看護援助を選択・実施ができる。
- (2) 患者の生活を支える職種の役割が理解できる。
  - ①現在と今後の生活を医療福祉の面から考え、他職種の支援内容が理解できる。
  - ②今後の生活に必要な社会資源を考えることができる。
- (3) 患者の意思を尊重して関わることで、援助関係が構築できる。
  - ①患者と適切な距離をとり、生活行動を共にできる。
  - ②傾聴や共感などのコミュニケーション技法により、患者の発言を促し気持ちが理解できる。
  - ③患者に出現している精神症状・状態像を理解した関わり方ができる。
- (4) プロセスレコードを用いて、自己の関わり方について考えることができる。
  - ①その時の思考や感情に気づき、患者と自己の言動の分析ができる。
  - ②自己の関わり方の傾向やコミュニケーション技法の活用を見直し、課題を明確にできる。
- (5) 専門職業人としての自覚を持ち、日々社会人としての力を積み重ねる。
  - ①決められた場・時間、規則を守り、毎回参加でき、責任ある行動ができる。

- ②対象を尊重し、あらゆる場面で倫理的行動（善行、正義、誠実、忠実）ができる。
- ③看護学生としての目的意識を持ち、主体的な実習から課題解決に向けた行動ができる。

<精神科デイケア>

- 1) 目的：地域治療としてのデイケアの目的と看護を学ぶ。
- 2) 目標
  - (1) デイケア利用者に関わり、プログラム等に取り組むことでデイケアの目的が理解できる。
  - (2) デイケアでのスタッフの関わりから看護師の役割が理解できる。
  - (3) デイケア利用者の生活に必要な支援を他職種の見点で理解できる。

## 統合看護実習

### 1 実習目標

- 1) 複数の患者を受け持ち、優先すべき情報収集や看護判断、看護の提供方法を理解できる。
- 2) 病棟における一勤務帯の業務の流れを理解することにより、看護師の役割と責任を総合的に理解できる。
- 3) 病棟における看護管理の実際を体験し、看護師としての責任と自覚を養う。
- 4) チーム医療、多職種との協働におけるマネジメントの実際を理解できる。

### 2 実習の構成

時期	区分	実習場所	単位
3年次	統合看護実習	一般病棟	2単位

\*実習時間には、実習ゼミ時間等の時間を含む

### 3 行動目標と実習内容

行動目標	実習内容
看護師長の役割と業務内容が理解できる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・病院、看護部の理念と病棟目標との関連がわかる。</li> <li>・病棟の特徴と看護体制・勤務体制・業務体制がわかる。</li> <li>・IAの種類が分かり、その情報共有の方法を知る。</li> </ul>
リーダー看護師の役割と業務内容が理解できる。 (Nurse Shadowing)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・チーム内の患者情報とリーダー看護師の業務量を知る。</li> <li>・カンファレンスを通して患者情報の共有の必要性を学ぶ。</li> <li>・リーダー看護師に同行し、メンバー看護師との連携を通してその役割を学ぶ。</li> <li>・看護師長、医師、他部門（薬剤師・OT・PT他）との報告・連絡・相談の重要性を知る。</li> </ul>
メンバー看護師の役割と業務内容を同行して理解できる。 (Preceptorship)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・メンバー看護師に同行し看護援助を実施する。</li> <li>・メンバー看護師が担当する患者情報と業務量を知る。</li> <li>・メンバー看護師の行動計画を知り、優先順位を考えた看護師の行動がわかる。</li> <li>・関係部門、チーム内の協力体制の実際を知る。</li> <li>・患者情報の報告・相談の実際を知る。</li> </ul>
夜勤の看護師の役割と業務内容が理解できる。 (Nurse Shadowing)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・夜勤看護師の患者情報の把握の実際を知る</li> <li>・夜勤の看護業務（就寝までの援助）の流れを知る。</li> <li>・夜勤時に必要な看護ケアを知る。</li> <li>・夜勤時の看護体制、連携を知る。</li> </ul>
勤務間での継続看護の実際を知る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・患者情報の引き継ぎの実際を知る。</li> <li>・チーム間の連絡・報告・依頼の実際を知る。</li> </ul>
受け持ち患者（複数）の状態把握と、援助の優先順位が考えられる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・複数（2名）の患者を受け持つ。</li> <li>・病棟のチーム表、電子カルテ、申し送りやカンファレンス参加、患者等から受け持ち患者の情報収集を行い記載する。</li> <li>・受け持ち患者の問題リスト、期待する結果を立案する。</li> <li>・患者情報から一日の看護アセスメントをする。</li> <li>・患者の優先度を考え1日のタイムスケジュールを計画する。</li> <li>・タイムスケジュールの修正・変更を経時的に行う。</li> <li>・1人の患者の援助の中の優先順位、2人の患者の優先順位をどのように考えたか、その根拠を記載する。</li> <li>・1日の終了時援助の優先順位を振り返り・課題を明確化する。</li> </ul>
患者に必要な援助が提供できる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・患者の状態の応じた看護援助（検温・ケア）を行う。</li> <li>・毎日、問題リストに基づいた観察項目を観察し、検温を実施した後、担当看護師に報告する。</li> <li>・必要な検温（観察）が実施できたか振り返る。</li> <li>・日常生活援助の実施状況を電子カルテより確認し、見学または、介助をする。</li> <li>・受け持ち患者の援助のうち優先度を考えて看護師同行のもと学生主体で援助を実施する。</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・患者に必要な日常生活援助が提供できたか振り返る。</li> <li>・与薬状況を電子カルテと実物から確認する。</li> <li>・服薬確認と援助の実際を見学する。</li> <li>・服薬について必要な援助が提供できたか振り返る。</li> <li>・受け持ち患者の輸液状況を電子カルテから確認する。</li> <li>・検温時・病室訪室時に輸液の管理（看護師と共に実施中の必要な観察）を行う。</li> <li>・受け持ち患者の輸液の実際（輸液の準備から片付けまで）を見学する。</li> <li>・輸液の管理について必要な援助が提供できたか振り返る。</li> <li>・受け持ち患者の問題リストの中の1つをSOAP記録する。</li> </ul>
<p>適切な時期に的確な報告・連絡・相談ができる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・受け持ち実習を通してリーダー、スタッフなど適切な相手に適切な時期を考えて報告・相談・連絡する。</li> <li>・受け持ち患者（複数）の安全面や優先度を考え、チームの一員として報告・連絡・相談する。</li> </ul>
<p>関連部門との連絡調整を理解する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・関連部門との連絡調整の実際を知る。</li> <li>他病棟（転科・転棟）、手術室、外来、医療連携室、栄養サポートチーム等への情報提供</li> <li>*機会があれば、以下の見学をする。</li> <li>・リーダー看護師、メンバー看護師に同行し、関連部門との連絡調整</li> <li>・転棟手続き及び、転棟</li> <li>・退院時の在宅、社会的資源の活用、支援の実際</li> <li>・専門看護師・認定看護師の活動</li> <li>・NSTの活動</li> </ul>
<p>他部門との連絡調整を理解する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・他部門との連絡調整の実際を知る。機会があれば、見学をする。</li> <li>・診療部（医師への報告・連絡調整、他科紹介・受診の際の連絡調整）</li> <li>・医療技術部・検査部・薬剤部・栄養部・医療ソーシャルワーカー・理学療法科</li> <li>・事務部</li> <li>・業務委託（清掃・物品管理）</li> <li>・医療ボランティア</li> </ul>